

KUMAMOTO YMCA NEWS

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

YMCA September 2015 vol.520

9



暑さに負けない！楽しいサマーキャンプ

- C O N T E N T S**
- ① YMCA学院教育講演会 『一瞬の感動を人生のきっかけに』
 - ② サマーキャンプ報告 国際青少年平和セミナー
 - ③ Youth Act Vol.17 ポニーキャンプユースリーダー 田原敏さん YMCA学院禁煙教育講演会 アースウィークくまもと2015座談会
 - ④ タラント No.18 「老いについて」 Topics 尾ヶ石保育園/赤水保育園

わたしと聖句



イザヤ書55章1節

渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。
銀を持たない者も来るがよい。
穀物を求めて、食へよ。
来て、銀を払うことなく穀物を求め、
価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。

何も持っていないくても

社会人になったばかりのわたしは、

何かを自分の手で勝ち取らないとだめだと思っていました。何かを人より持っていることが大事で、何か持たなければ生きることができないと考えていました。常に持っていないと嫌いな、持たなければ誰かから奪ってでも持つ者になるという生き方は、わたしの心も体も疲弊させていくのが分かりました。失うことを恐れて、しがみつくと、またやっとなんかに入れても、手に入れた瞬間、他のものに魅力を感じてしまっ自分空しさ嫌悪さえ覚えました。

疲労困憊に自己嫌悪と罪責感で苦しむ中で、神さまはわたしにこの聖句を与えてくださいました。何も持たなくても生きることが出来る。むしろ、何も持たないで神さまのもとに行けばよいのだ。神さまがわたしを養ってくださるのだ。何か持つことよりも、何も持たず、神の御手に身をゆだねるところに命の道があることを、わたしは知りました。わたしは得も言われぬ平安をいただくことが出来ました。そして、この平安は20年たった今でも変わりません。人にとって最も重要なのは神の御許で、神の恵みによって生きることなのです。

日本基督教団熊本城東教会
中村 英之

人生にもレシピがある

『一瞬の感動を人生のきっかけに』

豊かな感性と個性を育てる取組みの一環として、7月16日(木)に開催されたYMCA学院の教育講演会。専門学校、高等学校に通う310人に向けて、『一瞬の感動を人生のきっかけに』をテーマに的場亮さんによる講演が行われました。講演の一部を抜粋して紹介します。

今日は、私が人生のきっかけになると考えている「8つの習慣」の中から、4つの習慣を紹介いたします。第1は、「考え方を自分で選択」することです。一つの問題が出されたとしても、気づいていないだけで、答えは必ずあります。大切なのは、どうせ見つけられないと投げげるのではなく、答えを探そうと考える姿勢です。社会に出ると様々な問題に直面します。問題を解決する答えを探すためには、違いを考える習慣を持つことです。同じものでも、視点を変えると別のものが見えてきます。すると、自分の可能性に気づけるようになるのです。



的場 亮さん

株式会社グローバルキャリア代表取締役
18歳の時、家庭の経済的理由で大学を中退。先生になる夢を諦めきれず、塾の講師に挑戦。大手進学塾に採用され、生徒からのアンケートでは担当していた全クラスでの支持率が平均95%を超える。塾を辞めた後、キャリア教育の講演や一部上場企業の教育事業の統括マネージャーなどを務める。2009年に会社を設立し、「人生のきっかけになるメッセージを伝えたい」と、全国各地の小・中学、高校・専門学校、大学などで講演を行う。

私が高校生の時、父が事業に失敗しました。私は勉強ができませんでしたが、当時付き合っていた彼女は頭が良く、その出会いで得られる情報が変わりました。私は勉強し、大学に合格しました。アルバイトで授業料を賄いましたが、事情があつて大学を中退。やる気がなくなりフリーター生活に。しかし先生になりたいたいという夢を諦めきれず、日本で一番難しいといわれる塾の面接を受けることにしました。面接官に「僕は逃げていました。もう逃げたくないので、頑張ります」と言つと、大卒者しか採用しない塾で、正社員として採用されました。周囲は、有名大学を卒業している講師ばかり。私は、塾で生徒からの支持率トップの講師と自分の違いを考えました。3年間、その講師の授業を録音して聞き、ノートをとりました。変わ

たいという気持ちがあつたから、違いを考え続けることができたのです。そして私は支持率トップになり、塾を辞めるまでそれを維持しました。
レシピがあれば、知らない料理でも作る事ができるのと同様に、人生にもレシピがあります。それは人、本との出会いです。知らなかったことを知ることにより、人としての魅力を高めることができます。皆さんは、授業中に何をしていますか？ 一生懸命聞いている人とそうでない人の違いは何でしょうか？ やる気でしょうか。違います。時間の使い方です。自分の時間の使い方は自分で選べます。それが自分の人生に責任を持つということ。そうして内面が磨かれるといい笑顔になれます。人生は、自分が投げたものと同じものが返ってきます。笑顔で人をほめましょう。笑うときつと、幸せになります。

人生は一瞬の積み重ね

第2は、「憧れを持つ」です。自転車に乗りたいという憧れがあつたから、皆さんは諦めずに練習しましたよね？ 憧れと願望が一致した時、信念が生まれます。プロへの道は「好き」から始まります。本気で頑張ると成長が加速します。そして、信念があれば逆境も乗り越えられます。悔しいことがあれば泣けるくらい、今を生ぎましよう！

第3は「一点集中」。一つのこと集中できるからプロになれます。何事も最初は難しい。繰り返し意識して「技」を体得し、習慣化するとコンスタントに力

を發揮できるようにあります。プロになるためには基礎をおろそかにしないこと。皆さんは学校で学んでいることを、何度も反復していますか？ 何かを乗り越えることが困難だと思つていませんか？ 何かを「難」の前に、「今の自分にとっては」という一文を加えてください。困難とは、「今は難しい」だけ。できるようになるまで練習をしないでいただけなのです。

最後は「感謝」です。夢を叶えている人は共通して、「感謝の気持ち」を持っています。お母さんがご飯を作ってくれるのは当たり前だと思つていませんか？ お父さんは、勤務先でどれだけ頑張つてくれているか知っていますか？ 親に学費を出してもらつていながら、学校で寝ている時間はありません。自分をそばで支えてくれている人に感謝していますか？ 大切なことは世界共通です。素直に「ありがとう」と伝えましょう。「ありがとう」の数だけ人生は変わります。

父親のいない家庭で育つたある人の人生を支えたお母さんの言葉があります。お母さんは、その人が問題に直面するたびに、「大丈夫。おまえは素晴らしいんだから」と言い続けてくれたそうです。しかし、子どもが働き始め、感謝の気持ちを伝えようとした時、お母さんは突然の事故で亡くなってしまったのです。皆さん、今日の日曜にお小遣いでケーキでも買つて、感謝の気持ちを伝えてみませんか？ 人と関わることで、人生は大きく変わります。日々感謝して生きましよう。人生は一瞬の積み重ねです。瞬間の感動を人生のきっかけにし、ぜひ行動を起こす人になつてほしいと思つています。

子どもたちが大自然の中で成長！ サマーキャンプ報告

今年も600名以上の子どもたちがYMCAサマーキャンプに参加。夏ならではの水遊びや昆虫採集を始め、登山、魚釣りなどの様々な体験をしました。



はじめての海キャンプ①

期間:7月27日(月)~29日(水) 場所:御立岬

天候にも恵まれ、みんなで仲良く海水浴を満喫しました。夏の海は、サイコー！



5日間デイキャンプ①

期間:7月27日(月)~31日(金) 場所:熊本市近郊

たくさんのお友だちやリーダーと過ごした5日間。元気に活動しました！



科学じっけんデイキャンプ

期間:6月27日(土) 場所:阿蘇YMCA

考える力、失敗をバネに頑張る力、生きてくために工夫する大切さを学んだ一日となりました。



はじめて体験

1泊キャンプ①

期間:7月31日(金)~8月1日(土)

場所:阿蘇YMCA

はじめてのキャンプはドキドキでしたが、自分たちで作ったカレーの味は最高でした。



ファミリー星空キャンプ

期間:7月18日(土)~19日(日)

場所:阿蘇YMCA

ファミリーで、自然散策、クラフト、星座版作成など、家族の絆が深まるキャンプでした。



昆虫大作戦キャンプ①

期間:8月1日(土)~4日(火)

場所:阿蘇YMCA

クワガタやカブトムシ、オオムラサキなどたくさんの昆虫をゲットすることができました。

平和をつくり出す国際交流

国際青少年平和セミナーに参加

8月4日(火)~6日(木)、広島YMCA主催で行われた第37回国際青少年平和セミナーに熊本から高校生3名、YMCA学院生6名、引率1名の10名で参加しました。台湾・韓国・中国・ベトナム・シンガポール・ナイジェリア・日本など、世界各国のユース約70名が広島市に集まり、国際交流をしながら平和について学びました。

セミナーでは被爆者や、福島原発から避難している人の話を聞き、各国における問題について意見を交換。平和とは何か、未来に向かって平和をどうつくり出していかにかについて話し合いました。

セミナー中の言語は基本的に英語。最初はコミュニケーションがうまく取れず、戸惑っていた参加者もいましたが、完璧な英語でなくても、相手もしっかり聞いてくれることを実感し、次第に積極的にコミュニケーションをとれるようになっていきました。

今回の経験が、平和への一歩となり、参加者たちが、これから多くの仲間とともに、平和をつくり出すことを願っています。

職員 中村恭浩



今回の経験が、平和への一歩となり、参加者たちが、これから多くの仲間とともに、平和をつくり出すことを願っています。



コスモスキャンプ

期間:8月17日(月)~18日(火) 場所:阿蘇
発達上の苦手さを持つ子どもたちが、水遊びやパーベキューなどのキャンプ生活を体験。社会生活をいきいきと過ごす力を育みました。



あそぼうキャンプ

期間:8月7日(金)~9日(日) 場所:阿蘇
東日本大震災、九州北部豪雨災害の被災児童を招待し、第4回を開催。専門の医師らの協力もあり、お互いの絆を深められるキャンプとなりました。



ポニーキャンプ

期間:7月23日(木)~24日(金) 場所:阿蘇
熊本県立盲学校の児童・生徒を対象に開催。プールでの水遊び、草原でのソリ体験、ハンモックに乗り揺られたりと様々な感覚を使い、自然を満喫しました。



夏休みロングキャンプ

期間:8月4日(火)~9日(日)
場所:歌瀬キャンプ
登山を通して学んだこと!自信 勇気 達成感。そして仲間との連帯感。経験は心を育てます。

フィッシング海遊びキャンプ

期間:8月5日(水)~8日(土)
場所:ブルーアイランド天草
青い空、きれいな海で思いっきり魚釣り・海水浴・カヌー体験をしました。



子どもが好んで保育者になろうと決意し、幼稚園教諭と保育士の2つの資格が取得できるYMCA学院児童福祉教育科に入学しました。先輩に誘われ、熊本県立盲学校の子どもたちが参加するポニーキャンプにリーダーとして関わったのは1年生の時。最初は障がいのある子どもたちをサポートするという責任の重さに緊張して、積極的に子どもと関われませんでした。そして、子どもたちにも学ばせてもらっているという気持ちになり、翌年も参加。今年3年生になって、「今度は、自分が後輩の見本にならなくては」という責任感が芽生えました。

参加者には、視覚以外にも障がいのある子どもがいます。今年は車椅子を使用している子どもを担当。2日間つきっきりで、入浴時の介助などはクタクタになります。しかし、食事の時などにニコッと笑ってくれると、「今、どんなことを思っているのかな?」と想像し、やりがいを感ずります。

実習先の保育園では、障がいのある子どもを担当させてもらいました。ポニーキャンプでの経験があるからこそ、自信を持って接することができたと感じています。将来は、子どもと同じ目線で楽しみながら、先生としての立場からきちんと物事を伝えられる保育者になるのが目標。社会に出ると、理想と現実とのギャップを感じることもあると思います。が、初心を忘れずに頑張りたいと思います。

YOUTH ACT

Vol.17 YMCAで活躍しているユース紹介

●ポニーキャンプに参加



田原 敏さん(写真左)
熊本YMCA学院児童福祉教育科3年

本当に知っていますか

タバコ・薬物の害

YMCA学院では、在校生と保護者に向けて禁煙教育公開講演会を行いました。熊本市子ども文化会館のくじらホールにて、6月25日(木)は1年生、7月13日(月)は2・3年生を対象に実施。講師に、日本禁煙協会熊本支部長で禁煙カウンセラーでもあり、本学院のキリスト教教学を担当している牧師の高木義明さんを迎え、「本当に知っていますか タバコ・薬物の害」と題して講演。自分と他者の健康や命への影響を考え、どう行動するかについての投げかけや、タバコ

コ依存から、薬物への依存へとつながっていくことなどが話されました。学生たちには「自己責任だから自分には関係ない」ではなく、ともに健康や命について考えていく人であってほしいと願っています。

YMCA学院 加藤泰文



アースウィークくまもと2015 まちづくり座談会

7月29日(水)、熊本市役所で、アースウィークくまもと2015実行委員会主催の座談会が開かれました。テーマは「目指せ! バスと自転車」が元気のコンパクトシティ。第一部では熊本市が取り組んでいる施策などが紹介されました。

から問題提起が行われました。原さんは、「エコな乗り物である自転車の利用者に対し、行政からの援助があれば関心が高まる」と提言。森さんは、「バスの定時制の確保や市電との結節などを議論して再編を行いたい」が、各バス会社とも経営は厳しい。行政の支援も必要ではないか、大西さんは、「市電の延伸などに県や近隣の自治体とともに取り組み、市民には車から公共交通機関へと優先順位の転換を促したい。そのために

第二部は座談会。熊本市長の大西一史さん、九州産交バス株式会社代表取締役社長の森敬輔さん、アースウィークくまもと副委員長の原育美さんをパネリストに迎え、実行委員長の坂本正さんがコーディネーターを務めました。今回は、未来の熊本市の「公共交通のあり方」について、事前に参加者から募った質問をもとに考えていく全員参加型で進行。公共交通の利用者が年々減少している点をもとに、交通アクセスやバス会社間の連携、料金体系など、様々な観点

も、ニーズに応えられる組織を整える取組みが必要だと痛感しています」と話しました。



